

◇令和3年／2021年1月号 第98号◇



フジサンケイグループ

# 会 産経国際書会 報

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



風岡五城理事長 揮毫

「丑」は神様の使いと考えられています。「紐」という字に使われているように、人々との間を結ぶ存在でもあり、今年こそ人類皆が結束し、神様のご利益をいただいて、新型コロナウイルスを克服し、明るい年になると良いですね。



産経新聞社  
事業本部長  
伊藤 富博



産経国際書会  
理事長  
風岡 五城

## ウィズ・コロナ時代の書会

新年明けましておめでとうございます。

昨年は書道界全体が新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた一年でした。そのような状況下、皆様から賜りましたご協力にあらためて感謝申し上げます。

産経国際書会では第37回展が東京、地方展を無事終え、理事会は休会といたしました。現在、1月の新春展開催に向けて準備の真っ只中にあります。本年は少しでも状況が改善され、書道界が活力を取り戻される事を願ってやみません。

誠に残念ですが、昨年は当会を支えていただいた多くの先生方が鬼籍に入られました。

最高顧問の佐々木月花先生、名誉顧問の納谷古石先生、常任顧問の島村谿堂先生、同じく松本美娜先生、顧問の橋本旭石先生、他にも多くの先生方が亡くなりました。皆様方の在りし日をしのび、残された私どもも書会の発展のために、牛の歩みの様に一步一步力強く、書会の勢いを継続出来るように取り組んで参ります。

そのためにも、ウィズ・コロナ時代の書会活動の在り方を模索し、以前からの「作品の質の向上」「出品点数の増加」「精力的な活動の推進」を進めるとともに、2年後に迫った40周年記念事業の企画構築も考えて行きたいと思っております。

本年も引き続き皆様方のご支援をいただきながら、書会と新聞社が心をあわせて、産経国際書会の存在感をさらに高めて参ります。皆様におかれましては今年一年、体調を崩されず、健やかにご活躍されることを祈念いたします。

## 一步一步前に

明けましておめでとうございます。今年は丑の歳。牛の歩みの如く着実にぶれることなく一步一步前に進めてまいりたいと思いません。よろしくお祈りいたします。

昨年は新型コロナウイルス感染拡大が続く中で第37回産経国際書展を無事開催することが出来ました。偏に役員の方、また会員の皆様方のご理解ご協力のお蔭であると、深く感謝を致すところです。

新しい年を迎えても、コロナ禍は当分続くであろうことを覚悟せねばなりません。そうした状況をふまえて書会としては

1. 会員の健康を第一とする。
2. 不要不急の事業は無理して行わず、他の方策を考える。

の二点を基本方針として事業の展開を図ってまいります。

第37回展は無事開催出来ましたが、出品点数は前年比約2割の減少となりました。作品制作にかかる時期に緊急事態宣言が発出され、教室が休みになったり練成会が出来なかったりして、致し方のない事情がありました。今年は是非早めに対応していただきますようお願いいたします。

研修会については第一優先ではありませんが、万全の対応の下に実施したいと考えています。大学での講義も徐々に対面式の授業を実施するようになってきています。内容は昨年の企画を取り上げる予定です。

皆様の益々のご発展をお祈りいたしますと共に、一層のご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

## 令和3年歳旦を迎えて

最高顧問 齋藤香坡



令和になってあまり良いことがないまま、丑歳旦を迎える事になりました。おめでとうと申し上げるより、大丈夫ですか、そんな会話が似合う新春ですが、とりあえず本年もどうぞよろしくお願い致します。

また、昨年はコロナクルナのコロナ禍で、見えない菌との戦いは世界中を巻き込み、人類滅亡の戦いとなっております。八方塞がりの中でコロナ禍の終息と経済の立て直し、押し迫る「東京2020オリンピック」開催。その後の社会情勢に関

わる大きな負担等を考えますと、見えない問題が山積みです。

そこで申し掛かる宿命を乗り越えるために、今こそ文化の大切さが必要とされるときでしょう。経験を踏み台として、より高く希望を繋ぐことは、人類としての大切な歴史であり、文化となります。会員減少に知恵と団結力を活かし、有益な書会の行動力にならんことを切に願いつつ、会員皆様のご健勝を祈念申し上げまして、新年のご挨拶とします。

## 力を結集して

最高顧問 田中鳳柳



旧年一年間は総て新型コロナウイルスで終始してしまった感がある。更に第三波という大きな波に呑み込まれ、出口の見えないままに新年を迎えるという、かつて経験した事のない事態をどう乗り越えて行くのか。この国難の中で産経国際書会は先陣を切って第37回展を開催して暗闇に一灯を点したのであった。佐々木月花、納谷古石、島村谿堂の三先生が亡くなられた事も

書会として大きな損失であり、私としても第1回展から書会の発展を担ってきた仲間、先輩に先立たれた事は大きなショックであった。

私事ながら昨年初頭より体調を崩し儘ならぬ身体を宥め<sup>なぐさ</sup>め<sup>すか</sup>しながら過ごしてきた毎日ではあるが、時の流れを大切にと念願し、健康重視で前進するよう努力したいと思っている。

## 書の道一路

最高顧問 村越龍川



新年あけましておめでとうございます。

さて、私事ながら長年にわたり書を通じて、わが国の文化振興にいささかの寄与ありと認められ、平成29年度「文化庁長官表彰」を賜りました。この受賞は思いもよらぬ私にとって最高最大の慶事で、身に余る光栄。平成19年9月内閣総理大臣賞の栄誉と合わせて、ただただ感謝であります。これもひとえに、産経新聞社国際書会諸先生の無言のご高配と甚大なるお力添えの賜と心から御礼を申し上げます。

私は、一昨年4月に卒寿を迎えました。筆硯を無二の友として、いつの間にか70年が過ぎました。このところ加齢のせいか体力の衰えを時折感じます。しかし弱音は禁物、気力と体力が続く限り猪突猛進、書の道一路の行脚で参ります。

今夏開催の第38回産経国際書展の盛会を希い、産経書会に集う書友皆様の御健康といやます御多祥を祈念いたします。

## 東北展

東北展実行委員長  
松崎龍翠

会期●9月11日(金)～9月16日(水) 会場●せんだいメディアテーク



入口から会場を望む

思いもよらぬ新型コロナウイルスの感染拡大に悩まされ、産経展の開催も危ぶまれましたが、産経国際書会、産経新聞社の書芸術により社会を元気にしたいとの思いで開催され、無事に終わることができ嬉しく思っております。

東北展も去る9月11日から16日まで、せんだいメディアテークにおいて開催いたしました。コロナの不安のなか万全を期したいとの思いで諸々の対策を講じて開催した展覧会もお陰様で滞りなく終わる事ができ、実行委員一同安堵いたしております。

新聞社主催の三大展の中で唯一産経展の開催に地元の関心は高く、入場者数は昨年を下

回りましたが、好評を博し、コロナ禍の中で所期の成果を得ることが出来ましたことを関係者一同感謝いたしております。

今展は会期中予定のギャラリートークなど作品鑑賞と解説、そして、メインの贈賞式は中止といたしました。伊達政宗賞だけは伊達泰宗様においでいただき、贈賞式を執り行いました。このことは今年につながる一つの喜びとなりました。

新年からまた新たな気持ちで、東北における書道芸術の進展に尽力することを念じつつ、ご後援をいただいた東北六県の知事と仙台放送、および関係者の皆様に厚く御礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



東北展幹部作品



取材中



会場風景



伊達泰宗様(左から3番目)と伊達政宗賞受賞者・渡辺龍泉さん(同4番目)



芸能人の作品を見る



瀬戸内展受賞者の作品

# 瀬戸内展

瀬戸内展実行委員長  
大庭 清峰

会期●9月29日(火)～10月4日(日) 会場●広島県立美術館

9月29日から10月4日まで、広島県立美術館に於いて、第37回産経国際書展瀬戸内展が開催されました。春先からの新型コロナウイルスの蔓延により開催がどうなるのか憂慮しましたが、書会の開催の判断に安堵しました。こういった時こそ文化を停滞させないとの姿勢を受け、瀬戸内展では展示数は前年をわずか下回ったほどでしたので、会場の展示も例年通りだったように思います。

瀬戸内展におきましては、年々若い方の出品が多くなってきています。未来を担う若い世代のさらに多くの出品を願っております。また、今回は以前行っていました、来場者に参

加していただくワークショップ等も活用し、書をアピールする企画も実施できればと考えております。

昨年は、受賞式・祝賀会も断念せざるを得ませんでした。受賞された方々には非常に心苦しい次第です。一刻も早く新型コロナウイルスが終息し、第38回は例年通りに開催されることを切に願っております。

今開催に際しましてご尽力いただいた書会、幹部の先生方、また搬入・搬出及び会場の受付等にご協力いただいた会員の皆さんに改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。



会場風景



瀬戸内展関係者の色紙展

# 中部展

中部展実行委員長  
村田白葉

会期●11月3日(火・祝)～11月8日(日) 会場●愛知県美術館ギャラリー

晩秋の名古屋は、街路樹も色付きはじめ、例年よりも暖かな日が続く中、愛知県美術館において開催されました。

新型コロナウイルス感染症が拡大傾向の大変厳しい中での開催となりましたが、名古屋の中心地「栄」では、様々なイベントも開催されており、以前と変わらない大勢の人出で賑わいを見せておりました。展覧会場には、書会幹部、役員の方の先生方の作品と特別賞、入賞作品、そして、伝統書を中心とした中部地区の作品群が整然と並び、また、ジュニア展の特別賞、入賞作品も展示され、落ち着いた展観となりました。

最終日の8日には、ご多忙の中、大村秀章愛知県知事が来場され、各作品をゆっくり観て下さり、出品者に暖かいお言葉をかけていただきました。

今回は贈賞式・祝賀会が中止となり、入賞・入選者には淋しい状況となりました。そこで希望者には、展覧会場での授与を計画し、3日、7日、8日の3回にわたり、賞状・トロフィーと共に一輪のお花を添えてお渡しいたしました。大変好評をいただきました。

中部展実行委員の先生方をはじめ、展示・搬出・受付等多くの先生方のご協力を頂き、無事終了できました事、心より御礼申し上げます。



特別賞受賞作品



会場風景



ジュニアの優秀賞も展示



希望者に賞状を授与



全国巡回の幹部作品を望む



関西展幹部作品

# 関西展

関西展実行委員長  
松井玲月

会期●11月25日(水)～11月29日(日) 会場●大阪市立美術館

最後の地方展となる関西展は、連休のため例年より1日少ない11月25日から29日まで、大阪市立美術館で開催しました。天候に恵まれましたが、このような世情なので、入場者数は減少、仕方のないことと思いました。コロナ対策は美術館側と書会と共によりしっかりと対応させてもらいました。受付の方々には、大変に気遣いをいただいた毎日でしたが、なんとか無事に乗り切り安堵しました。

祝賀会・贈賞式は中止になり、受賞者の皆様には淋しい思いをさせてしまい残念でした。その中で、一般の方の希望があり、展覧会場の

個々の作品の前で、簡単に贈賞を行い、写真を撮りました。喜んでもらえたようです。今後も検討したい点のひとつと思われます。

この第37回展が開催された事により、沈みがちな業界の中で明るい話題の一つだったという意見もいただいています。関西展の開催が感染者増加の大変な時期と重なり、とにかく無事終了したことをご報告できます事が嬉しく、挙げてご協力くださいました実行委員の先生方と共に喜びを分かち合いました。感謝申し上げます。



感染対策に留意した受付



会場風景

# 第 38 回 産経国際書展 募集要項

1. 複数出品の料金は3,000円です。
2. 第2分野の料金は10,000円です。
3. 外国人出品者は軸装での展示を認めます。
4. 2021ジュニア展高校生A部門出品者は、U23部門の出品料を1点無料とします。

**【出品資格】** 18歳以上の方ならどなたでも、但しU23は高校生以上23歳まで(2021年4月1日現在)

**【作品部門】** (各部門とも未発表作品に限ります)

- 漢字部門: A 20字以内 B 21～200字以内 C 201字以上
- かな部門
- 現代書部門: A 少字数書(4字以内) B 近代詩文書(漢字かな交じり文) C 墨象 D 刻書
- 臨書部門: A 漢字 B かな ※出典は自由
- 篆刻・刻字部門: A 篆刻 B 刻字 ※この部門は第1分野です
- U23部門: 年齢制限(高校生～23歳)のみ、すべてのジャンルの書作品を同じ土俵で審査します。

**【作品寸法】** (仕上がり寸法を基準とする)

## 第1分野

	紙の最大寸法	額(外枠)の寸法=基準寸法
A	240cm×60cm	8尺×2尺(242cm×61cm)縦のみ
B	180cm×60cm	6尺×2尺(182cm×61cm)縦横自由
C	135cm×105cm	4.5尺×3.5尺(136cm×106cm)縦横自由
D	135cm×70cm	5.8尺×2.8尺(176cm×85cm)縦横自由
E	180cm×90cm	6尺×3尺(182cm×91cm)縦横自由
F	120cm×120cm	4尺×4尺(121cm×121cm)

※紙寸法聯落以上の作品であること(但し一つの詩・詞で半切2枚の貼り込みは可)。

※篆刻・刻字・刻書は規定以内であれば自由。

※「かな」の小作品でも、上記規定寸法A、B、C、D、E、Fに貼り込めば第1分野と認めます。

## 第2分野

	紙の最大寸法	額(外枠)の寸法
G	135cm×35cm	小画箋2分の1・縦横自由
H	70cm×68cm	小画箋2分の1・方形のみ

※半切は種類により寸法に多少違いがありますが、1～2cmの誤差は認めます。

※「かな」の小作品は、上記規定寸法G、H以外でも第2分野として認めますが、極端に小さい作品は不可。

**【出品料】** 一般部門 第1分野(税込み)=1点13,000円、第2分野(税込み)=1点10,000円  
※日本国籍以外の方1点=8,000円  
U23(高校生以上23歳まで)部門=1点5,000円、但し「2021産経ジュニア書道コンクール」高校生A部門出品者はU23部門の出品料(1点)を無料とする。

※分野にかかわらず複数出品の場合(2点目以降)1点3,000円

**【賞】** 高円宮賞、産経大賞など特別賞と特選、秀作、入選など。  
**【応募締切】** 2021年5月6日(木) 午後3時までに指定表具店に搬入をお願いします。

**【発表】** 2021年7月中旬 産経新聞紙上にて。

**【贈賞式】** 2021年7月会期中(予定)

**【展覧会】** 会場：東京都美術館 東京都台東区上野公園8-36  
会期：2021年7月27日(火)～8月3日(火)  
開館時間：午前9時半～午後5時半 入場は午後5時まで  
入場料：500円(障害者手帳をお持ちの方と付き添いの方1人、65歳以上、および学生は無料)  
展示作品：秀作以上の入賞作品、地方展(東北、瀬戸内、中部、関西)展示エリア以外の入選作品

問い合わせ 詳細な募集要項と出品票は産経国際書会までご請求下さい。

---

## 第38回 産経国際書展 審査員(予定)

---

**特別選考委員**／石川天瓦、岡部昌幸、風岡五城、齋藤香坡、酒井孝太郎、晋鷗、竹澤玉鈴、田中鳳柳、手島泰六、富田淳、原田圭泉、平方峰壽、村越龍川、山下海堂、吉野毅

**漢字**／愛澤奏剣、泉芳秋、大庭清峰、勝田晃拓、金丸鬼山、坂井光泉、坂本香心、鈴木暁昇、高木撫松、長尾佳風、永田龍石、平岡雄峰、前田聖峰、三宅秀紅、山本晴城

**かな**／伊藤春魁、今口鷺外、加藤芳珠、齋藤春欣、武富明子

**現代書**／生田佳葉、遠藤香葉、加柴律子、小嶋カズ子、諏訪春蘭、高野彩雲、高橋照弘、高橋雄喜、中西美蕙、山田秀園、渡邊麻衣子

**篆刻・刻字**／岩浅写心、風岡五城、五月女紫映

**臨書**／今田篤洞、中村雪鷺、松井玲月、松崎龍翠、望月暁云

**U23**／大谷煌水、岩下鳳堂、鎌田悠紀子、高頭子翠、渡邊麗

# 2021産経ジュニア書道コンクール

高校生A部門の出品料は3,900円。軸装にして返却します。※返却料はご負担ください。

<b>開催要項</b>	<b>審査員</b>	2021年4月中旬に発表します。審査長は高橋照弘、実行委員長は眞田朱燕。
<b>会期</b>	2021年7月27日(火)～8月3日(火)	<b>発表</b>
	午前9時30分～午後5時半(最終日は午後2時半まで)	入賞者氏名は2021年7月中旬の産経新聞紙上(予定)で発表します。
	前期＝7月27日(火)～29日(木)	<b>募集期間</b>
	後期＝7月31日(土)～8月3日(火)	2021年4月1日～6月2日消印有効
	※7月30日(金)は展示替えのため休室	<b>搬入場所</b>
<b>会場</b>	東京都美術館 2階第4展示室	〒134-0088
<b>会賞</b>	文部科学大臣賞など特別賞。推薦、特選、秀作、佳作となります(中学生以下)。	東京都江戸川区西葛西6-9-12
<b>贈賞式</b>	2021年7月31日(土)予定	西葛西トーセイビル4F
		(株)スタッフアルファコミュニケーション内「産経ジュニア書道コンクール」係

## 出品要項

応募点数 一人何点でも可 応募資格 幼年、小学生、中学生、高校生

## 出品規定

書体		幼年	小学生	中学生	高校生	
		楷書			楷書または行書	自由
大きさ	A部門	八つ切り			小画仙たて半切(縦書きのみ) 〃 よこ半切(縦横自由)	
	B部門	半紙			半紙(縦のみ)または半切よこ4分の1(縦横自由)	
作品への名前等の書き方		年齢と姓名 姓名どちらかでも可	学年と姓名 小1、2年は姓名どちらかでも可		名前(姓不要)の下に書または臨と墨書	
出品票		漢字でフルネームを記入し必ずふりがなを明記し、作品の左下隅に貼付			臨書は法帖名、創作は題名を備考欄に記入	

※八つ切り＝半切4分の1(たて68cm×よこ18cm)、小画仙たて半切＝たて135cm×35cm、

小画仙よこ半切＝たて68cm×70cm、半切よこ4分の1＝たて34cm×35cm

※多少の寸法誤差は認めます。

※規定の出品一覧表を添えてください。

	規定の漢字数	参考課題	
幼年	規定なし	うし	とりい
小1	規定なし	すいか	よるこび
小2	規定なし	白さぎ	あさがお
小3	漢字1字以上	星ぞら	川あそび
小4	漢字2字以上	音がく会	赤い夕陽
小5	漢字2字以上	流れる雲	金色の波
小6	漢字3字以上	高い理想	研究発表
中学	漢字4字以上	学問と芸術	窓下有清風
高校	制限なし(一字書から多字数)	臨書あるいは創作(書体自由)	
国際	規定なし		

※国際は外国人または国外在住の日本人

※参考課題は、A(八つ切り)部門、B(半紙)部門共通です。

## 出品料

	中学生以下	高校生	国際	
A部門	1,000円	3,900円	600円	※金額は税込み、高校生A(たて半切、よこ半切)部門は軸装料含む。 また、軸装作品は展覧会終了後、返却します。※但し、返送料をご負担ください。 出品料は下記銀行口座にお振込みください。 みずほ銀行 大手町営業部 普通2786314 口座名:ジュニア書道コンクール
B部門	600円	600円	600円	

募集要項、出品票、一覧表は産経国際書会事務局 ☎03(3275)8902までお問合せください。一式資料をお送りいたします。

## 令和2年の書会活動

令和2年は年明けから新型コロナウイルス感染症の話題が口に上り、2月末には日本中の美術館、ギャラリー、展示会場が次々と閉鎖、5月末まで全ての活動がとまりました。書会も3月の総括会議は書類で決裁、4月の総会も中止となりました。

緊急事態宣言が明けた6月より徐々に活動を再開、7月には何とか第37回産経国際書展と2020ジュニア書道コンクールを開催しました。一方で恒例の夏期研修会は中止といたしました。

また、会報会議は書類のやりとりで済ませ、企画部、研修部、総務部、渉外部など全ての部会の会議・活動は行いませんでした。実際の会議は10月21日に第1回教育部会、10月28日に第1回総括会議です。どちらもリモート参加の先生がいらっしゃるコロナ禍ならではの会議でした。総括会議では12月理事会の議題などを討議、しかし、理事会は中止となり書類による決議集計といたしました。

主な内容は「執行部役員は、来期が2年任期の2年目なので変更なし、専管理事以下の役員についても少数の変更にとどめました。また審査会員、無鑑査会員、会友については115人が昇格いたしました。また、来年度の実行委員会や運営委員会については原則昨年度のメンバーが引き続き担当することで了承されました。審査事務、搬出入事務については審査会での3密を避ける意味で少人数に委嘱いたしました。」などです。  
(事務局)

## 今後の展覧会などスケジュール

※新型コロナウイルス感染症の状況により変更する場合があります。

第37回新春展	令和3年1月20日(水)～2月1日(月)国立新美術館 贈賞式 1月28日(木)国立新美術館講堂 14時～
総会	令和3年4月15日(木)大手町サンケイプラザ 14時～(予定)
第38回本展締切	令和3年5月6日(木)
第38回本展審査会	令和3年5月24日(月)～27日(木)東京都立産業貿易センター浜松町館
2021ジュニア展締切	令和3年6月2日(水)
2021ジュニア展審査会	令和3年6月16日(水)、17日(木)東京都美術館
第38回本展 2021ジュニア展	令和3年7月27日(火)～8月3日(火)東京都美術館 前期:7/27～7/29 後期:7/31～8/3
2021ジュニア展贈賞式	令和3年7月31日(土)東京都美術館講堂(予定)
第38回本展贈賞式	令和3年7月27日(火)～8月3日(火)の会期中 (未定)
夏期研修会	令和3年8月14日(土)、15日(日)大手町サンケイプラザ(予定)
第38回東北展	令和3年9月17日(金)～9月22日(水)せんだいメディアテーク 贈賞式 9月19日(日)ホテルメトロポリタン仙台 15時～(未定)
第38回瀬戸内展	令和3年9月28日(火)～10月3日(日) 広島県立美術館 贈賞式 10月2日(土)広島ガーデンパレス 14時～(未定)
第38回中部展	令和3年11月2日(火)～11月7日(日)愛知県美術館ギャラリー 贈賞式 11月6日(土)(未定)
第38回関西展	令和3年11月23日(火)～11月28日(日)大阪市立美術館 贈賞式 11月28日(日)都シティ大阪天王寺 12時30分～(未定)
理事会	令和3年11月30日(火)大手町サンケイプラザ 14時～(予定)

## 書と私

常任顧問  
田村 政晴

人には自分の生き方を見直し、改めたりする転機が用意されている。書を書く上でいくつかあった。そこを少し述べてみたい。

一つは平成10年4月2日の朝、とても息が苦しくて目が覚めた。体がだるく、とても職場に行けそうもないと思った。ともかくいつものとおり、職場に向かった。体は更にきつくなり、息をしても酸素が取り込めず、水から飛び出した金魚のようだった。11時頃、仙台市の健康福祉局の局長が、年度始めの挨拶に見えた。話の途中私の体調の話をしたら、市立病院の診療受付時間は過ぎていたが、待ってもらおうようにと電話を入れてくれた。

病院は道路を挟んで向かいにあり、なんとか歩いてたどり着き、待っていた医師からすぐにニトロを含まされた後、即入院となった。手術室に運ばれ、カテーテルを動脈に入れられ、心臓の映像を撮られた。意識が遠のき、目が覚めたのは三日経った後のことだった。あとで知らされたが、その間危篤状況が続き病名は心筋炎だった。

そしてその間、不思議な夢を見た。私の目の前に光り輝く空間が広がり、自分がその前に佇んでいる。何者かに声をかけられたようだったが、覚えていない。そして生還した。得難い体験だった。

入院生活は一か月に及び、退院した。帰宅したら、庭はドクダミはじめ雑草が勢いよく芽吹いていた。その茎を抜きながらふと何か新しい命を得たこと、今生きていることを実感した。無性に筆を持ちたい思いに駆られた。その時、わたしは書の世界にどっぷり首まで浸かってみようという覚悟を新たにした。

わたしが書を学び始めたきっかけは、勤めていた会社が倒産したからだ。入社して二年半のことだ。エスカレーターに乗り損ねたと思い、大きな挫折感を味わった。思い描いたように歩んでいたなら決して書の世界に足を踏み入れるこ

とはなかっただろう。失業したので、父が開いていた書道教室の手伝いをしたのがこの道に踏み込んだ始まりだった。

書を学ぶ上で、師匠は肉親ではまずいという父の考えに従い、東京の國井誠海先生に入門することになった。ともかく26歳頃から書展に出品するようになった。昭和56年に毎日賞を受賞し、翌年に読売書展に移り、その三年後には、新設の産経国際書展へ出品することになった。渡り鳥のように軽い気持ちで國井先生の後に従って歩んできた。平成元年に書成会を立ち上げ、新しい職場にも馴染み、二足草鞋を履いて、ぬくぬくと日々を過ごしていた。

入院したのはそのような生活の最中だった。神様が一番良いタイミングで頭を殴ってくれたものだ。目を覚まさないわけにはいかない。教育者で、哲学者「修身教授録」の著者、森信三先生が揮毫した「念々死を覚悟して初めて真の生となる」の掛け軸を前にして、まさにそのとおりだと得心している。今日一日に集中し、筆を持って歩けるだけ歩いてみたいと念じている。いつか思いがけない、新しい景色に出会えるかもしれない。

二つ目の気づきの時は、あの東日本大震災だ。多くの尊い生命が失われ、沿岸部の学校は軒並被災した。宮城県芸術協会書道部では支援活動の一つとして、津波で流失した校名板と校歌を書いた額の寄贈だった。私は石巻市内の二つの小学校を受け持った。

ある一日、当該小学校から贈呈式に呼ばれ、出席した。被災前には70名の生徒が在籍していたが、当日は17名だった。校長、教諭、生徒が背筋を伸ばし、大声で校歌を斉唱する姿を目に

し、あたりを憚らず涙を流した。今でも思い出たびに涙は流れる。生徒たちにはこの光景を心の奥深く留めていて欲しいと願った。現在は三つの小学校が統合され、校名も新たに北上小学校となった。校名板も額もどこにあるのか知らない。でも書の持つ力が私の心に深く刻まれた。誰しもが読める作品を書きたいと強く思ったのは、この時だった。以来、誰でも読め、少しでも見る人の記憶に残る言葉を探して書くように心がけている。あれから10年が経とうとしている。

この年の産経国際書展東北展は開催が危ぶまれたが、予定どおりの会場・会期で開催された。オプションとして参加された来賓の先生方を名取市関上はじめ、被災地をマイクロバスで巡っていただいた。

新型コロナウイルス菌が収まらず、多くのイベント、祝賀会は中止の状況にある。当時も祝賀会の自粛が当然の状況であった。そのような中、東北展実行委員会は、展示会場の脇のホワイエを使い、ささやかな祝賀会を実施した。本当に気持ちばかりの祝宴だったが、会場内にいた人たちも引き入れた宴会は、書に携わる人たちが互いに励まし合い、有意義なものになった。

これからは更に書を学ぶ者同士の「絆」「縁」を大事にしようと誓った。あの時、近くの酒屋さんに走り、地酒を両手にぶら下げて会場まで運んだ。あの弾んだ気持ちをこれからも忘れる

ことはないだろう。

新型コロナウイルス禍の勢いが治まらない中、書道界は、高齢社会を背景に、衰微していく感を拭えない。「下を向いていたら、虹を見つけることはできない」喜劇俳優チャップリンの言葉だ。このピンチを何とかチャンスに変えられないだろうか？ともかくみんなで知恵を出し合い、元気に一歩を力強く踏み出さなければならない。

今朝こんな言葉を書いた。「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ、やがて大きな花が咲く」この言葉はオリンピックマラソン金メダリスト高橋尚子の座右の銘だ。私は成功の反対は失敗ではなく、何もしないことだと思っている。私達はこれまで、当たり前だと思っていた、書道の価値観を見直し、新たな価値観を創造しなければならない時に差し掛かったのではないだろうか？



「素」のまま

# 第 37 回 産経国際書展 新春展

◆会期 令和3年1月20日(水)～2月1日(月)

1月26日(火)休館

午前10時～午後6時

◆会場 国立新美術館 2階B・C・D展示室

◆入場 500円(大学生以下、65歳以上は無料)。

※1月20日(水)オープニングのテープカットを会場入り口付近にて10時30分より予定しております。

※1月28日(木)午後2時から同美術館講堂にて贈賞式を行います。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため祝賀会は行いません。



今回は、代表展190点、新春展Ⅰ184点、新春展Ⅱ442点、合計816点を展示します。

うち大作は生田佳葉専管理事(かな)、武泉翠専管理事(漢字)、谷蒼涯理事(かな)、晴山竹芳審査会員(現代書)の4点となりました。

新春展Ⅰは昨年に比べ6点減りましたが、Ⅱは42点増え、全体では36点増えました。このコロナ禍にも負けず、多くのご出品をいただき展覧会に活気が戻ることが何よりも喜ばしいことです。

新春展Ⅱの審査は12月4日(金)、東京・六本木の国立新美術館地下1階の審査室で、今田篤洞、金丸鬼山、高木撫松、高頭子翠、高橋照弘、武富明子、松井玲月の7人の先生方により442点の作品を対象に行われました。

受賞者は以下の通り

〈会友奨励賞〉

小堀曉聲、浜田隆範、半谷松華、森井爽生、山内恵子、横田香藍

〈産経新聞社賞〉

桑夢実、腰原佳恵、高瀬美斗、常松真紀、中山美扇

〈奨励賞〉

市原澄子、市原直子、岩崎婉水、内田陽子、大平眞咲、岡田和美、小野右鷲、川上青舟、栗原京子、末田薫代、小西玲香、五味尊子、小峰雪韻、佐藤嘯月、鄭明子、高橋里奈、武井昌泉、田中瑛恵、鶴淵雅子、中川嶺泉、橋本妙、半谷松秀、弘重輝扇、深松華夢、本間節子、松本和恵、松本恭、宗像翠龍、村木香信、本山鈴翠、山本みずほ

受賞者が  
決まりました!



# 書展 トピックス

## 墨色のインプレッション 二人展

小川艸岑

●会期 9月8日(火)～13日(日) ●会場 銀座 鳩居堂画廊

まだ残暑厳しいコロナ禍での仮名(小宮求茜)墨象(小川艸岑)の二人展、不安や戸惑いもありましたが300人近くの方々にご来場頂き、思いきって開催して良かったと思っています。

この時期だからこそその感慨もひとしおで、ご来場くださいました皆様にご心よりお礼申し上げます。おかげさまで楽しいひとときを過ごすことができました。



## 第35回全国臨書模刻展

●会期 10月6日(火)～10月8日(木) ●会場 埼玉会館 岩浅写心



今年中止をせざるを得ないのかと思っていたが、コロナ感染者が少し減じた10月の初旬、埼玉会館が空いていた日程をお借りして、5日に飾り付と審査をし、6日から8日まで展覧ができてホッとしています。

中国大使館と産経新聞社にご後援頂いていますので競書誌を持たない当会としては、こんな時にとの声もありましたが、自粛生活の中、家で書を習っていた熱意の方々には開催して良かったと思っています。忙しい中ご参観頂いた産経関係皆様にも感謝しています。

## 第70回記念 洸風会書道展

岩下鳳堂

●会期 10月10日(土)～10月12日(月) ●会場 熊谷市中央公民館大ホール

今年は、洸風会創立70周年の記念書道展でした。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、授賞式と祝賀会を中止して、展示のみの開催となりました。例年、伝統書を中心に学生部(小・中学生)を含め出品数の減少となりましたが、公募一般部、学生部並びに役員方々多数の出品を展示致しました。お陰様で今回も多くの方にご来場者で盛況に終了することが出来ました。



## 及川扇翠の世界展

及川扇翠

●会期 10月11日(日)～10月17日(土) ●会場 東京交通会館ギャラリーエメラルドルーム

東京交通会館で毎年テーマを決めて開催する個展は7回目を迎え、不変の愛をサブタイトルに今年は「家紋」を題材に選び源氏物語を全て漢字に直して書きました。Coronaで大変な時期に例年どおり開催でき、来場者にも来て頂けて、お琴の演奏も聞いて下さり心より感謝申し上げます。

## 第45回焠心同人書展

松崎龍翠

●会期 10月15日(木)～10月18日(日) ●会場 銀座かねまつホール

コロナの不安と自粛の中で、同人書展の開催も危ぶまれましたが、書芸術で社会を元気にしたいとの産経の趣意に賛同し開催することと致しました。

自粛の中で各同人が精魂を傾けて書き込んだ作品に、ご来場いただいた皆様から温かいお言葉を頂戴し、一同感謝の思いで一杯です。誠に有難うございました。さらに古典を基に表現の多様性を学んで一同精進を重ねて参る所存であります。



## 第5回記念「美の会」現代書展・ジュニア書道展

渡部美恵子

●会期 10月15日(木)～10月18日(日) ●会場 酒田市美術館

2年に一度の開催ですが、今回、ジュニア(小・中・高校生)は詩人吉野弘氏の詩集から字句を選び掛軸にして展示し、一般は小品から大作まで日頃研鑽の現代書を発表しました。イベントとして会場内でギター演奏協力のもと、ジュニア11名が詩の朗読、渡部美恵子が中庭にて揮毫を行いました。地方も新たな文化活動の在り方を模索している昨今で、一つのプレゼンになりました。



## 「第11回 書・墨・アート 渡邊麗展」

渡邊麗

●会期 11月3日(火・祝)～12月6日(日) ●会場 杉並芸術会館 座・高円寺

杉並芸術会館、座・高円寺企画開催「文字のひびき一心の動くままに」の大作(180×180cm)4点は自作の語と唱歌。一字書と掛軸3点、仮名和歌、臨書、俳句など計26点の新作を発表。今回の展示に関わる作品が芸術新聞社「墨」誌企画で掲載。12月15日～22日横浜市の劇場・若葉町ウォーフ企画「渡邊麗一祈りの軌跡」でも展示。ご来訪の方々に御礼申し上げます。



# ❑ コロナに負けるな！ 書展開催だより ❑

## 第6回方琥書院書画展

久田方琥

●会期 9月24日(木)～9月29日(火) ●会場 茨木市立ギャラリー

この会場も新型コロナウイルス感染のため、7月までは閉鎖されていました。会期の時は、再び感染が広がりはじめた頃でしたが、昨年とほぼ変わらない入場者数で、不安の中来ていただいた方々に感謝です。一人一人が思いを込めて表現した作品に沢山お褒めのお言葉いただきました。

今また感染が拡大し先行きが不安な状況ですが、第7回展に向けてより一層の努力を重ね社中展を成功させたいと思っています。



## 第48回土筆会書道展

上村陽香

●会期 10月13日(火)～10月18日(日) ●会場 ふくやま美術館

産経展の第9回展から出品しております土筆会ひなびしは、吹抜溪風師匠なきあと、お互いが結束を計り切磋琢磨の精神での書道展で48回目を開催いたしました。郷土の福山城四百年もあり一作は“城”をテーマに様々な思いを自由に表現しようと漢詩をはじめ唱歌あり、歌曲あり北から南への土地柄を感じながら楽しく終えました。感謝。

## <龍峽書道会>蘭溪展

●会期 10月13日(火)～10月18日(日) ●会場 銀座鳩居堂画廊3階

龍峽書道会の幹部による選抜展には、初代会長・龍峽、二代・龍契両師の遺墨をはじめ30人の作品が展示されました。今年はコロナ禍のなか、開催も危ぶまれましたが、予定通り10月に開催することができてほっとしています。会員の皆様、ご来場いただきました皆様に感謝申し上げます。(事務局)



## 第66回あしで會選抜書作展

今口鷺外

●会期 10月30日(金)～11月1日(日) ●会場 尼崎市総合文化センター

66回目となる伝統を守りたいものと、慎重な態勢の開催。自身は大字での“般若心経”を書いたのだが、思いの外例年並みに多くの方々  
が足を運んで下さり、久しぶりの和やかなムードの中、夫々の研鑽ぶりを称え合った次第。こんな状況の中でこそ書の魅力、価値を改めて共有した展示会であった。



## 明扇書藝會20周年記念発表会

長谷川明扇

●会期 10月31日(土)～11月3日(火) ●会場 長野市芸術館アクトホール

当会20周年事業としまして、長野市芸術館にて発表会を開催致しました。会場は、ライブやお芝居などが主の多目的ホール。全面ブラックの空間を活かして、360度空中も使い、産経展での現代書を展示。宇宙空間に作品を惑星に例えての演出。中央には、地球映像を設置して、世界に発信すべく「地球へのエール」と題しました。

## 尚友会2020展

小杉修史

●会期 11月12日(木)～11月15日(日) ●会場 しずぎんギャラリー[四季]

尚友会は、平時5年毎に大作展覧会を開催しますが、会員からの要望で昨年秋企画し、故佐野丹丘師作品と会員47名の小作品(会場の大きさの制限をうけ)を発表しました。書会関係者より心強い応援も頂き、来場者も見やすく飾れると評価頂き、深く感謝します。コロナ禍でも無事・安全にご観覧頂き終了することが出来ました。



## 第32回日書美展併催学生公募展

中塚龍華

●会期 11月14日(土)～11月15日(日) ●会場 岸和田市立文化会館展示場

理事長が健康上の理由で不在の中、本会々員が一人となり今年も日書美展を開催出来ました事は一同誠に有難く誇らしい経験となりました。感染症対策として各部贈賞式は中止としましたが、出品作品は各社中力作揃いで多数の方々にご覧賜りました。お力添え頂きました産経新聞社・産経国際書会の皆様に厚く御礼申し上げます。

## 第37回記念CMO展・近畿席書会

正川子葉

●会期 11月21日(土)～22日(日) ●会場 藤井寺市民総合会館

コロナ禍の中、日本伝統文化の“書”の存在をいかにアピールし、継承していくのか?心にゆとりと生活に潤いを与え、楽しく生活に“書”を取り入れて頂く為にも書展を開催しました。入場者は約500人と例年の半分でしたが、外出しにくいなか、ご高覧頂いた方に感謝を申し上げます。「やってよかった」というのが今の本当の気持ちです。

また、誰何TV-YouTube「この指とまれほんまモン2020/10/6」に出演、書について発信しました。ぜひ検索してご覧ください。





## 第49回千墨書道展

近藤豊泉

●会期 11月25日(水)～11月30日(月) ●会場 品川区民ギャラリー

第49回千墨書道展は厳しいコロナ禍の中、会期を遅らせ品川区民ギャラリーで11月25日から30日までの6日間開催致しました。ご来場頂ける人数は全く解らないまま例年通りのご案内をしました。想像を上回る来場者に頭が下がりました。出品点数は減少しましたが来年50回展に向けて研鑽を重ねて参ります。一日も早いコロナ禍の終息を願っております。

# アラカルト

## YouTubeで「書」を発信

(事務局)

コロナ禍の中、リモート環境を使い書道普及に取り組んでいる鎌田悠紀子常務理事。

7月25日から「鎌田悠紀子の美しい書道」と題してかなを中心に初心者にもわかりやすい内容のYouTubeを10月25日までに10回upしています。新日本教育書道連盟(今口鷲外常任顧問)、鈴木暁昇理事のホームページ、Facebook、YouTubeなど多くの先生方がネットで書道を発信されています。これからの時代、ネットでの発信がきっかけで書を学ぼうとする方々が増えていくでしょう。

さあ、みんなでネットの世界へ!



## 鈴木暁昇理事、「週刊女性自身」「サンケイスポーツ」で美文字指導!



昨今のコロナ禍により、自宅で過ごす時間が増え、美文字を練習する人が増えています。

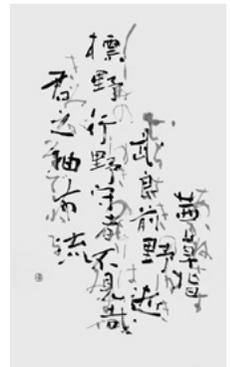
鈴木暁昇理事は「週刊女性自身」(11月10日号)＝写真左＝で「おこもり美文字」練習帳を用意、「基礎編」「発展編」「実践編」として字がうまくなる練習法を披露しました。また、サンケイスポーツでも「美文字への道」というテーマで、「目で見て覚える基礎編」(7月31日付)＝写真右＝「漢字とかなを美しく書く法則編」(8月7日付)として書き方のポイントを伝授しています。

また、単行本「基礎の基礎からもう一度学びなおせる美文字練習帳」(¥1,320)が昨年12月に刊行、好評発売中です。

## 「読み、味わう現代の書」に岡美知子参与が参加

言葉を読み、線の造形の美しさを堪能することをテーマに「読み、味わう現代の書」展が東京・上野公園の東京都美術館で開催中。昭和、平成、令和と公募展で活躍した榎倉香邨(日本書芸院)、岡美知子(現日会)、小山やすこ(日本書道美術院)、中野北溟(創玄書道会)、村上翠亭の5人を紹介、彼らは読める「書」を念頭にかなや近代詩文書を発表してきました。産経国際書会の岡美知子参与の作品は全てこの展覧会の為に書き下ろした新作です。

令和3年1月7日まで。



# 松本美娜先生、島村谿堂先生を偲んで

## 松本美娜先生を偲んで

美娜先生、永い間お疲れ様でした。いつも優しい笑顔を有難うございました。数年前、心臓の大手術をされ、以後はお電話で近況を知らせ合い、お会いすることはありませんでした。残念です。もう一度会いたかったです。

桑原江南先生の合宿でお会いして以来、五十年近い友達でした。お弟子さんを大事になされ、旅先からも携帯で「○日が都合悪ければ×日にいらっしやい！」と優しい言葉をかけて居られました。また永年頑張っておられたジュニア展も、年々充実・発展しており安心なさったでしょうね。

播いた種は確実に実を結んでいます。門人の方々も仲良く頑張っておられます。

どうぞゆっくりお休みください。(合掌)



松本美娜先生(右)と竹澤玉鈴先生(左)(お住まいの江の島にて)

名誉顧問 竹澤玉鈴

## 島村谿堂先生を偲んで

日光山輪王寺境内で開かれた島村谿堂個展、僧堂や書院をつなぐ廊下や階段を歩み、それぞれの部屋に置かれた作品が周囲の風情に溶け込み、制作者の人柄が偲ばれました。それが二十年前、島村先生との出会いでした。

数年後、島村、竹澤両先生体制のジュニア展の下で、席書会が遂行されて新風が起き、翌年には低学年の励みにと、いきいき賞を新設し、4年後、高校部再開で内容の充実が図られました。新聞に先生の御名が載ると、必ず教え子が来場されて、いつまでも敬愛の念を抱かれる教育者のお姿に頭が下がりました。島村先生、お疲れ様でした。そして有難うございました。どうぞ安らかにお休み下さい。奥様とともに・・・。(合掌)



はにかむ島村谿堂先生(右から4番目)

常務理事 眞田朱燕

## 各会書展お知らせ(産経新聞社後援)〈令和3年1月～3月〉

展覧会名	会期	会場	社中名	代表
第39回埼玉県中央書道展	1月22日(金)～1月27日(水)	上尾市民ギャラリー	埼玉県中央書道人連盟	細淵柳青
第84回龍峽書道展	2月5日(金)～2月11日(木・祝)	東京都美術館	龍峽書道会	林龍成
第38回全国公募・学生部併催煌心展	2月12日(金)～2月19日(金)	東京都美術館	煌心書道会	松崎龍翠
第60回同巧会書展	2月16日(火)～2月21日(日)	銀座かねまつホール	同巧会	青陽如雲
第32回書成会書展	2月18日(木)～2月21日(日)	セントラルミュージアム銀座	書成会	建部恭子
第36回景雲社「絆」書道展	2月23日(火・祝)～2月28日(日)	クリエート浜松ギャラリー	景雲社	勝田晃拓
第50回安らぎと触れあいの書展 第37回書のコアメントールぼくりん	3月9日(火)～3月14日(日)	銀座鳩居堂画廊	墨林書道院	遠藤乾翠
第9回墨筍展	3月14日(日)～3月17日(水)	文京シビックセンター ギャラリーシビック	墨筍会	眞田朱燕
第49回八戸臨泉会書展 第72回八戸臨泉会学生書道展	3月26日(金)、3月27日(土)	八戸ポータルミュージアム はっち	臨泉会	原田圭泉
2021菽水書人社展	4月2日(金)～4月5日(月)	銀座かねまつホール	菽水書人社	今田篤洞
第29回柏葉書展	4月9日(金)～4月12日(月)	柏市民ギャラリー	柏葉書道会	高頭子翠

# 追悼

次の先生方が黄泉につかれました。

本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

常任顧問 島村 谿堂(令和2年11月) 顧問 樽谷 龍風(令和2年12月)  
無鑑査 藤原 英龍(令和2年10月) 無鑑査 野崎 俊峯(令和2年10月)

## 編集後記

めでたさも中位なり一特別な思いで迎えたお正月。頂度一年程前のこと、新春展を終えた頃からのコロナ騒動。世界中が疫病の蔓延で未曾有の窮地を強いられています。

昨年は書会も総会、理事会等行えず、他の書道展中止が相次ぐ中、万全の対策を立て開催された産経展、その苦渋の決断は適正であったと思われました。

また東北展、瀬戸内展、中部展、関西展も無事終了することが出来ましたことに感謝し、ホッと胸をなで下しております。実行委員の先生方、本当にお疲れ様でございました。

今夏の東京オリンピックも不安が頭を過ぎりますが、体操の内村航平選手が「出来ない」のではなく「出来るようにすること」との力強い言葉に励まされたものでした。何事もそのように心がけながら皆様と共に前進できればと思います。今年は人間の英知を結集させ平穏であれと祈るばかりです。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

(小川艸岑)

(会報編集委員／高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子)

編集・発行 令和3年1月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

**産経国際書会事務局**

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

<http://sankei-shokai.jp/>

<https://www.facebook.com/sankeishokai>

### お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにお願ひ致します。